

成人向

アナハ ワールド



VOLTCOMPANY.

■黒雪姫■

「せ…先輩！？その格好は！？」
「先日なんでも言う事を聞くと
約束しただろう…」

「だから…その…今日はキミの
好きなようにしていいぞ」

「な、なんでも！？なんでもって
なんでもいいんですか！？」

「…う、うむ。ハルユキ君の趣味も
知っておきたいしな」

「まあ私のカラダなんて見ても
たいして面白くはないだろうが…」

「そんな事ありません！先輩の
体はとっってもキレイです！」

「そ、そうか？キミが喜んでくれるなら
私もうれしい…」



「ハルユキ君…これでいいのか？」
「はい先輩！」

「私にはよくわからないが…君は
これで幸せなのか？」
「はい先輩！すごく幸せです！」

「そうか…それならいいんだが…」



こんな事が現実で
体験できるなんて…！

うわあ〜っ
黒雪姫先輩のお尻が
顔いっぱい…！



カサカサ...

こここんな感じか...?

カッパッパッ

「あまりじっと見つめないでくれ…
さすがに恥ずかしいぞ…」

先輩に大股開きでポーズをとってもらった。
ずれた水着からのぞくたてすじが
ちょっと濡れて光っている。

「先輩…すごくキレイです！」



せつ…
先輩…

んあつ…
はつハルユキ君…
そんなトコロを舐めたら
汚いぞ…

あ…♥

6



大丈夫です!
先輩のお尻の穴なら
舐くらでも
舐められます!

んあつ…♥

ビクッ



んっ…はあっ…



ヌグッ
グッ



そっ…そんなっ…
指を出し入れしないでっ…
んあっ…♥

びんぎんぎん

あっ…♥

グッグッグッ

グッ

グッ

ヌグッ
グッ

ヌグッ
グッ

先輩の肛門に指をさしこむと、きゅんきゅんと締め付けてくる。いつもクールな先輩が僕の指先ひとつで乱れるところを見ているものすごく興奮してきた。

ビクッ

なっ…
そんなものどっからっ…？

ふああっ…♥
だつダメだっ…
こっこんな感覚…
はじめてっ…♥

んああっ…♥

あっ…♥

アッポポポッ



「いいか…いくぞ…？」

さすがに抵抗が強かったけど
なんでも言う事を聞くという約束の
おかげで先輩にゆで卵を
肛門からひりだしてもらえた。
この映像は永久保存しておこう。

「いいかハルユキ君…こんな恥ずかしい事
を私がしたなどと絶対他人に言うんじゃ
ないぞ…！」

「はいっ！先輩！僕の脳内にバッチリ
記録してしまっておきます！」

「バカっ…」

ふふふ…

ズツ…

んんん

んんんんん…

んんん…

んんん…

うわあっ…
先輩のお尻の穴
すこく気持ち
いいですよっ!

はんっ…
そっそうかっ…
あっ…

これから毎日
先輩の肛門
使わせて下さいねっ!

なっ…
ま、毎日…!!?
あっ…あんっ…

ズググ
ズググ

ズグ

ズググ
ズググ

だつてこんなう
気持ちイイの知つたらう
もうガマンできませんしっ!

先輩がっ…イヤならう
やめますけど…!!

ふあああっ…
や…っ…
やめないでっ…

わかったからう…
毎日…私のアナル
使つていいからう…

ズググ
ズググ

先輩っ…
僕もうっ…
イキますっ…

ビクッ
ツル

んああっ…
わっ私もうっ…
イクっ…♡

ビクッ
ツル

んっ…はあああああ♡

トッ
ツル

ツル

ツル
ツル
ツル

「先輩…今日もいいですか？」
「む…また…するのか？」

「しかたない奴だなキミも…
こんなところをするなんて誰かに
見られたらどうするんだ…？」

「やっぱりダメですか。じゃあ今日は
やめておきましょう」
「べ、別にダメとは言っていない…！」

「ほら…好きにして…いいぞ」



すっかりアナルセックスにハマってしまった
黒雪姫先輩。
自分から尻たぶを開いておねだりする
ようになった。

■上月由仁子■



「あ、お兄ちゃんおかえりなさい！」
「おフロにする？お食事にする？それとも
あ・た・し？な—んでね！」

家に帰ったハルユキの目の前に
裸エプロンの少女がいた。
かわいらしいお尻が丸見えだ。
「……えっ？」

え...?
ナニ? どういう事
ですか?

なんでウチに
裸エプロン少女が...?

「うっせーなジロジロ見てンじゃねーよ！」
「その...なんだ...アンタには世話になったからな
ひとり淋しいデブオタ野郎にあたしがサービス
してやるって言ってんだよ」

14

「ホレ、あたしみたいな美少女が
こーんな恥ずかしいカッコしてんだぞ?
イロイロしてーことあんだろ?」

「いや意味がわからないし…
なにかの罫？いやがらせ？」

「あーもうぐだぐだとめんどくせーな！」
「じゃあこれでどーだ！」

くはぁん

「はいっおにーちゃん！女の子の一番大事なトコ
見せたげるっ！」

「えっちなこといっばいしても…いーよっ」
ニコはいきなり天使モードに切り替えて満面の笑顔で
はしたない大股開きポーズを見せつける。

「うおおおおおおおっ！！」
眼前にさらけ出された光景にハルユキの理性は崩壊した。

「…っていきなりオシッコしろとか
アンタ超変態ヤローだな！」

「しょうがないからしてやるけど！
1回しかやらねーからな！」

かえーっ…

…んんん

あたしの
こんなトコ見られる
機会なんてもー二度と
ねーからな！
ありがたく思えよコラ！

んっ…

シャアアアッレ



ほら…
ち、チンポ出せよ！
あたしがフェラして
やつから！

えっ…？
でもあの…

いーから
おとなしくしろっ！
もうこんなポツキさせてん
じゃねーか！

うわっ…
コレ…凄くきもち
いいよっ…

あつたりめーだろ！
あたしが舐めて
やつてんだぞ！

んむっ…♡

んっ…♡

んっ…♡

んっ…♡

んっ…♡

んっ…♡

んっ…♡



くっ…ニコッ…
僕…もうっ…

いいよ…
あたしのクチに
出せよ…

ううっ…
ニコッ…

んっ…
んあっ…♡

んむっ…♡

んっ…♡

んっ…♡

んっ…♡

んっ…♡



「こ、今度はケツの穴かよ…」
「アンタほんっとーにド変態だな！」

「しょうがねーから見せてやるけど
誰かに言ったらブツ殺すからな！」

ホレっ
これがあたしの
ケツの穴だっ!

く いっし

びっ びっ

す、好きなのだっだけ
見やがれっバカっ!

ビクッ

んあつ...
ちよつ...おまつ...
ドコなめて...
んああつ♥

ガッ

ちやう..

ちやう..

ちやう..

んあつ...

ちやう..

ちやう..

んあつ

んあつ

んあつ...♥

んあつ...♥

ばつ...
バカ...
やめろ...
あつ...んあつ...♥





ズッポム

ニコッ…
イクよっ…!!

ビクッ

あんっ…♥

んんん…♥

ズッポ

ビクッ

んっ…♥

ドッポ
ドッポ

や…だっ
こんなっ…ケツで
イクなんてっ…

あっ…
んあああああっ♥

ドッポ
ドッポ

ど、どうだハルユキ君…
私のお尻の方が
魅力的だろうか？

あんなキツイだけの
小娘の尻よりよほど
いいぞ？

だ、だから
まず私の方に
入れてくれ

グイッ

ヒッ
ヒッ



けっ…なにに
言ってるんだ黒いの！

おい！あつちの
ユルユルなケツ穴
なんてやめとけ！

あ、あたしのケツ穴で
思い切りイカせてやるって！
ほれ！早くしろ！

く にっし



スッ...

ドキ

ドキ

は...ハル...
見えてる...?

タツくんには
絶対ナイショだからね...

たつ

では、また次の本で。

■奥付

発行：2012・08・12 印刷：ねこのしっぽ

VOLTCOMPANY／旭丸

mail:volt@nona.dti.ne.jp

HP:<http://www.nona.dti.ne.jp/^volt/index2.html>

「深海60000」

●この本の内容の無断転載、配布を禁じます。また18歳未満の方の購入はお控え下さい。



VOLTCOMPANY.